SHONAN VISION
Social Magazine
Vol.43
2021.03

BLUE FLAG Japanサミット2020 実施報告書

NPO法人湘南ビジョン研究所
NPO法人 FEE Japan
高浜町

実績概要

名称　BLUE FLAG Japan サミット 2020
開催日時　2021 年 2 月 7 日（日）8 時 30 分～11 時 30 分
開催場所　オンライン形式（Zoom を使用）
目的　今年で 2 回目となる日本国内 4 都市のブルーフラッグ（BF）認証海岸の関係者が一堂に会し、国際環境認証「ブルーフラッグ」取得の意義を再確認し、認証ビーチの現状と課題を共有するとともに、国内におけるブルーフラッグ認証地域の普及による海辺からの SDGs の実現に貢献する。
実施内容　①主催者代表挨拶
②基調講演
③近況報告
④活動紹介
⑤意見交換
⑥総括・講評
主催　NPO 法人湘南ビジョン研究所
NPO 法人 FEE Japan
後援　文教大学湘南総合研究所
参加者　100 人

主催者代表挨拶

おはようございます。高浜町の仲野博之です。私は、屋内ではなく、「WAKASA WADA BEACH」におります。

昨年度サミット実施後、次回は「WAKASA WADA BEACH」でビーチクリーンなど行いながらのサミットが出来ればというお話しがございましたが、このコロナ禍、大変残念ですが実現できませんでした。そこで、まず現場からの中継を行いたいと思います。このコロナ禍では、皆さまも様々なご苦労されているとは思いますが、本日はむしろ前向きな情報交換ができればと考えております。

和田浜は、正面に青葉山、そして広い砂浜が特徴の海岸です。この青いネットの役割をご存知でしょうか。これは、冬場の北風による飛砂を守る環境防砂用ネットです。砂浜を保全し住環境を守るものです。和田地区 600 世帯の皆さまが、秋に設置を春に撤収を行うということを総出で行っており、夏だけでなく年間を通して、海岸を守る活動をボランティアで行っております。ネット設置は、以前はピン止めでしておりましたが、環境に配慮した紐止めにして頂くなど、福井県のご協力も頂いております。ブルーフラッグの取得は、県からの協力を頂けるきっかけにもなっていると考えます。こうした地域の活動が地道に行われ、これからもこの素晴らしい環境を守っていきたいと思っています。

今日は、私たちの活動をお話しするとともに、他に地域の活動についても、いろいろお聞かせ頂ければ幸いです。

第1部 基調講演
世界のブルーフラッグの現状と展望

国際環境認証ブルーフラッグとは
NPO法人FEE Japan理事長 伊藤正侑子氏

日曜日の朝早くからご参加いただきました皆様ありがとうございます。今日も私たちは冬で寒い時期ですが、まさに夏まっさかりの南半球では、コロナ禍でもそれぞれの国の安全基準を守った上で、ブルーフラッグが揚がろうとしています。本日は初めてこのブルーフラッグサミットにご参加いただけた方のために、ブルーフラッグの概略をご紹介して、その後、世界のブルーフラッグビーチの取り組みなどをご紹介したいと思います。

■ブルーフラッグとは

ブルーフラッグとは世界で最初にできた歴史ある環境認証で今から 36 年前、1985 年にフランスで生まれました。2020 年末の段階で 、『日本を含む』世界 47 カ国、4671 カ所のビーチ・マリーナ・観光船舶で取得されています。

ブルーフラッグを取得するには、「環境教育と情報公開」「水質」「環境マネジメント」「安全とサービス」の 4 つのカテゴリーに分けられた 33 の基準を満たし、審査は国内審査と国際審査両方で認められる必要があります。つまり、継続して基準を満たしていくという持続可能な発展のための行動としては重要です。また、全てを満たして認証を取得しても、毎年の更新が必要です。このため、世界でも新たに取得するところ、認証を取り消されるところが、毎年の審査で生まれます。すなわち、ブルーフラッグを毎年継続して取得していくこと、これが持続可能な発展のための行動として重要です。

このような厳しい認証にもかかわらず、世界中でブルーフラッグの取得が増えつづけています。これはブルーフラッグを取得することが、地域の経済的側面と環境的側面を両立させる持続可能な開発につながると 世界的に高く評価された結果であり、ブルーフラッグをかかげ続けていくことはその地域の誇りとなっているからだと言えます。

■ブルーフラッグ～2016 年に日本およびアジアで初『鎌倉市由比ガ浜』と『高浜町若狭和田』

1 月 30 日に 2021 年度シーズンのための日本国内審査委員会が開かれ、2016 年に日本およびアジアで初めてブルーフラッグ認証を受けた鎌倉市由比ガ浜海水浴場と福井県高浜町若狭和田海水浴場、2019 年に認証を取得した神戸市須磨海水浴場と千葉県山武市本須賀海水浴場の 4 つに加え、今年新たに申請された、藤沢市片瀬西浜鵠沼海水浴場、合わせて 5 つのビーチが国内審査を通過しました。

4 月の国際審査で、是非 5 つ全てのビーチがブルーフラッグ認証を認められ、コロナ対策が進んだ日本でこの夏 5 つの青い旗がはためくことを心から願っています。

■FEE と国際審査委員会

FEE（Foundation for Environmental Education）とは、環境教育を通じて持続可能な発展を目指す非政府・非営利団体です。推進している各プログラムは、国際審査委員会にて審査します。ブルーフラッグの国際審査委員会は、欧州環境機関、沿岸保全欧州連合、国連環境計画、世界観光機関、ユネスコ、国際海洋産業協会、国際ライフセービング連盟、FEE 取締役会などの団体からの代表者で構成されています。

ブルーフラッグの国際審査会は年に2回、いわゆる日本と同じ夏にビーチの時期を迎える北半球グループのための審査と、日本の冬の時期にビーチシーズンを迎える南半球グループのための審査に分けて行われています。それぞれの審査会では、国内審査を通過したサイトを評価すること、また、ブルーフラッグの取り組みを始めた新しい国のチェックも行われます。

2020 年度の南半球グループ審査の大きな話題としては、インドに 8 つのブルーフラッグビーチが誕生したことです。インドは、資源と生物多様性に富んだ 7,500km 以上の海岸線に恵まれています。南半球グループとしてアジアで初めての BF が誕生したとPRしました（世界的には日本がアジア初の BF 取得の栄誉を受けております）。また、チリでも初めてのブルーフラッグビーチが誕生しました。『チリにおける初取得を、』国内のファンデーションを行う団体が、わずか 1 年で取得できたことは、非常に画期的な出来事であるといえます。北半球のカナダでは、新しい国内団体が生まれ、近いうちにカナダからも新しくブルーフラッグが認証されることが期待されています。

■『ブルーフラッグベストプラクティスコンペティション』～BF 環境行動賞について

2020 年はブルーフラッグ認証 35 周年を記念して、このコンテストの初の選考が行われました。コンテストは、世界中のブルーフラッグサイトで実施されている環境保護、SDGs への取り組みに対し、世界で最良の例を　広く共有するために作られました。2020 年の最初のコンテストのテーマは『汚染対策』で、日本からは由比ガ浜海水浴場での 5 年間にわたる、海の家からの雑排水の水質改善活動について報告致しました。

記念すべき「北半球」の第 1 位は、2019 年夏に「モロッコ」の 63 の自治体で約 3 か月にわたって実施されたプラスチックフリー・ビーチアクション・キャンペーンです。大きな 3 つのイベントには、27 の企業と 100 以上の地元の団体が参加して行われました。特筆すべきは、このイベントで回収されたプラスチック廃棄物487トンは、水道局・電力会社、リサイクル会社および農村部の少女の学校教育支援委員会の協力を得て、収集、分類、計量、リサイクルされました。そしてこの収益は、地方に住む女子のための教育促進や学校のデジタル化への原資として寄付されました。

第 2 位は、「アイルランド」のドニゴール州バンドランで行われたコミュニティ啓発キャンペーン「Think Before You Flush」が選ばれました。ウェットティッシュ、綿棒、衛生用品、その他の不適切なアイテムをトイレに流す習慣をやめて、インフラのオーバーフローやマイクロビーズの河川、ビーチへの流失を止めるということを目標としております。

第 3 位は、「ポルトガル」で取り組まれた「魚（ハゼ）は何を食べますか？」プロジェクトです。アルコバサ、タヴィラ、カンタンヘデの 3 つの自治体は、ブルーフラッグビーチに巨大な魚の形をした金属製ゴミ箱を設置しました。人々が持ち込むプラスチックごみは、この魚に入れられます。魚の中に入った多量のプラスチックごみ、それが魚の体の中にたまっていくのを視覚的にもとらえることができ、廃棄されるプラスチックの量がどれだけあるのか、またそれが生き物にどのような影響を与えていくのかなど、リサイクルする重要性について意識させることが目的です。

「南半球」グループからのベストプラクティスの第 1 位は、「ドミニカ共和国」のプラスチック汚染の削減を目的とした、「Wave of Change」変化の波プログラムです。お客様、従業員、サプライヤー、そして社会全体の意識に変化を与えていく波となりました。2018 年から、イベロスター Group は、経営するホテルのビーチを含め、使い捨てプラスチックの削減、持続可能な漁業の促進、沿岸の健康の改善という 3 つの活動に取り組み、ペットボトルの消費量は 2019 年の 150 万本から 2020 年にはゼロを実現しました。

インドの8ビーチがブルーフラッグ取得

北半球部門　3位

南半球部門　1位

第 2 位は、「アメリカ領バージン諸島」の流域教育アウトリーチが選ばれました。流域で目撃されている雨水や汚染の原因について、教育とアウトリーチを通じて、流域社会全体の人々への環境認識の向上に寄与しました。

第 3 位は、2020 年 10 月に BF を取得した「インド」の 8 つビーチでのプロジェクトです。8 つのビーチは BF を申請するにあたり、ゼロごみ、ゼロ汚染のコンセプトに基づいて、ゼロプラスチック、再生可能エネルギーの利用、浄化飲料水キオスク、バイオダイジェスター付きトイレの設置など多様な取り組みを行い、また、ビーチ管理委員会および州の法定機関によって定期的にその監視が行われています。

これらの情報はブルーフラッグ国際本部の HP にも記載されています。ちなみに、2021 年のベストプラクティスのテーマは、生物多様性・気候変動対策です。国内審査委員会は日本のベストプラクティスとして、高浜町　若狭和田海水浴場の環境教育動画を推薦することにしました。

https://www.youtube.com/watch?v=ma0yo4Ty4i4

■ブルーフラッグ認証基準と SDGs17 の目標

BF 国際審査委員会は、新型コロナウイルス感染症による危機が世界中のブルーフラッグビーチ・マリーナ・観光船舶に、多大なる影響を与えていることを認知しています。しかし、このような不確実な時代だからこそ、ブルーフラッグが果たす重要な役割があります。

子ども達の笑顔があふれる持続可能な未来のために

www.blueflag.global

SDGs 持続可能な開発の17の目標

2020 年 7 月 7 日、国連は「持続可能な開発目標報告 2020」を発表。各国政府による SDGs～持続可能な開発目標の進捗を明らかにする一方、その取り組みに対する、新型コロナウイルス感染症の影響に言及しました。とりわけ、その関係が強く指摘されたのは、SDGs の「目標 15：陸の豊かさも守ろう」です。

多様な生物が息づく森林環境などの破壊を伴う土地利用の変化が、新興感染症と呼ばれる新しい感染症をもたらし、世界の公衆衛生と経済を脅かしている点を指摘しています。そして、世界の生物多様性の劣化・消失が、感染症を引き起こす一因として注目される中、生態系の保全と回復を目指す国際的な取り組みの重要性を改めて示しています。

ブルーフラッグは「目標 14 の海の豊かさを守ろう」につなげて考えられがちですが、持続可能な世界を実現する SDGs の目標はどれもつながっています。特に生物多様性は陸から海に、海から陸につながることです。コロナ禍だからこそ、私たちは SDGs 持続可能な社会の実現に取り組む必要があります。コロナ禍における、今の問題に立ち向かう事と合わせて、これから来る脅威を軽減するためにも行動する必要があるのです。

ブルーフラッグ認証の 33 の基準は、国連が目指す持続可能な世界を実現するための 17 の目標すべてに関わっています。言い換えれば、ブルーフラッグを取得するということが、まさに未来を見据えた行動 SDGs に取り組んでいる証とも言えるのです。持続可能な未来のために、新型コロナウイルスに続く次の脅威を生まないこと。これからもずっときれいな海でいるために、みんなが力を合わせることが必要です。

ブルーフラッグをかかげること、それは、子ども達の笑顔があふれる持続可能な未来のためにがんばっているという証明なのです。

第2部 近況報告

海水浴場におけるブルーフラッグの現状と課題

近況報告① 由比ガ浜海水浴場

鎌倉市観光課　角田裕亮氏

■誰もが安心して楽しめるファミリービーチの実現

これが鎌倉市の海水浴場の目標です。お子様や親御さんが笑顔になれるような場所として、キッズ＆ファミリービーチを開設しています。波の穏やかな場所をお子様の優先エリアとし、夏休みの休日と、お盆の期間には、ライフガードを充実させ監視体制を手厚くしています。

■BF 認証取得の経緯

国際的な環境認証であるブルーフラッグ認証をアジア初・日本初の取得を先駆けて行うことで、海水浴場のイメージの向上及び安全で快適なビーチ作りへの機運を盛り上げるものとなりました。ブルーフラッグ認証、これは持続可能な海水浴場運営を目指す国際認証ですので、認証の取得がゴールではなく、取得する事でスタートラインに立てたものと考えております。また、由比ガ浜海水浴場に、今後もブルーフラッグを揚げ続けるためには、多くの厳しい基準を継続してクリアしていく必要がありますが、そのためには近隣の皆様や、海水浴客の皆様、また、海水浴場に関わる様々な方のご理解ご協力が不可欠になると思っています。

■オール鎌倉での取組『キープザクリーンハート』

海水浴場が開設されていない。その中でも来られる方がいるため、今年度は風紀維持と安全安心確保を目標に活動しました。市、海浜組合、ボランティアの方々を始め、マリンスポーツ団体、漁業組合、警察のほか、普段海水浴場ではあまり関わりを持たない、マリンスポーツ団体など地域が一体となって安心安全なビーチを見守る活動を行いました。熱中症対策のために、市で用意したＴシャツや、熱中症対策のために寄付して頂いた揃いの帽子を着け”この困難を乗り越えていこう”と気持ちを一つに取組ました。

また、今年はライフガードの監視所や手配が難しかったため、海にテントや監視塔を立て、放送設備を積んだ車を乗り入れて、海水浴に来られている方へ、安全のための情報や注意事項の発信を行いました。また、安全な場所が分かるよう、3 メーターもある大きなフラッグを立て、フラッグの間はライフガードが重点的に見守っている事をお知らせしました。これらの事を海岸の入り口に看板で明示し、安全な場所を示す取り組みとして実施しました。

鎌倉市としては、これらの取り組みと、珍しく台風も無く海が穏やかだった事にも恵まれたため、この夏の事故は 0 で乗り切れたのではないかと思っています。また、この取組を続けて、普段海水浴場では関わらなかった団体の方とも協力する事が出来ました。コロナ禍で、海水浴場は開設出来ませんでしたが、こうした関係を築けたと言う事は、大変な財産になったのではないかと思います。来年以降もブルーフラック認証を取得したビーチに恥ずかしくないような体制を整えていこうと思います。

■来年度以降の課題

新型コロナ感染症対策としては、県が策定されたガイドラインを受けて、対応を考えていきたいと思っています。また、バリアフリーの対応としては、どんな方が来られても笑顔になって頂けるようなビーチを目指し、引き続き取り組んでいきたいと思います。海の家の下水処理システム実施につきましても、現在海浜組合と協力して解決に向け取り組んでおりますので、引き続き対応させて頂きたいと思います。

■今後に向けて

アジア初のブルーフラッグ取得地域であるとともに、これを継続していくのは大変難しい課題ではあると思います。我々も努力して、この素晴らしい認証にふさわしいビーチであり続けられるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

近況報告② 若狭和田海水浴場

若狭高浜観光協会　高田慎平氏

■コロナ禍でのビーチのあり方を考える

若狭和田海水浴場はワンシーズンに 20 万人が訪れるビーチです。2016 年にブルーフラッグを取得し、今年で 5 年目となります。今年度はコロナ感染の事もあり、海水浴場は不開設となりました。5 月に会議を行い、周辺地域の情報取集や地元団体への聞き取り、警察への事前相談した結果、不開設となりました。その中でも高浜町独自のガイドラインを作成するなど今後に生かせたらと考えています。不開設の主な要因としては、海の家（浜茶屋）での感染対策の運用の徹底が難しく、ライフセーバー、水難救助員の人員確保が困難であり、また住民からの不安の声が大きかった事です。

町の対応としては、海岸沿いの公的な駐車場を全面閉鎖しました。公共トイレの約半数を閉鎖し、また行政・観光協会より浜茶屋、駐車場に営業の自粛を要請しました。 それでも海岸を利用される方が来られるので、海岸利用を控えるチラシや看板を設置しました。海岸の利用を控える注意喚起の放送や声掛けを行い、パトロール艇での海上巡回を実施しました。ジェットスキー対策としてブイを設置し、密漁パトロールをシーズン中に数回実施しました。海水浴場閉設の間に、海岸の清掃を実施しました。経済的な部分では、国、県とは別な高浜町独自の「高浜町夏季観光事業者支援金」で観光事業者の支援をさせて頂きました。

■ブルーフラッグの効果

今年度は環境教育に力をいれました。普段はシーズン中に、小学生を対象とする貝殻を使ったワークショップや、生き物観察会等を行っていましたが、今年度は高校生や大学生、大人を対象とした環境教育を行いました。京都大学教授に来て頂き「海の生き物の成り立ちについて知ろう」の講義をして頂きました。普段参加しない方なども参加され、とても専門的な内容で、満足度も高く、これからも続けていきたいと思える良い機会になったと思います。

◆次年度への取組

コロナを受けて、様々な問題が見えてきました。次年度に向けてのガイドラインの作成が必要と考えます。高浜町特有かも知れませんが、砂浜、地上、海上、遊歩道の 4 つエリアに分け、その中でさらに、トイレや海の家等のガイドライン、また花火大会等イベントのガイドライン、救助体制やゴミの回収の仕方のガイドラインも考えないとならないと思います。住民へのガイドラインも作成し、これらを網羅しながら、丁寧な対応が必要になってくると思います。

■今後に向けて

ビーチのマイナスイメージの回復を図るためには、2021 年、安心してビーチで過ごせるような取組していきたいと思っています。明るいニュースとしては、コロナ禍の中でも、民間と共同でビーチクリーンを行い、集めたペットボトルでサングラスを作ろう!というプロジェクトを実施しました。民間と共同出来た事は、今後に期待がもてます。

また、ライフセービング協会の協力で、“海辺のみまもりシステム”を導入致しました。千葉の御宿中央海水浴場と、宮崎の青島海水浴場にも導入されています。海岸に設置した 4 台のカメラで撮影された映像を AI が分析。そして、離岸流の発生が検知されると、発生地点をライフセーバーのスマートウォッチへ通知するというシステムです。ライフセーバーは離岸流の場所を察知し、迅速に遊泳客へ危険を伝える事が出来るようになり、海の事故を未然に防ぐことが出来ます。ライフセービング協会より提供頂いた AI、IOT 等先端技術を駆使したシステムを導入する事で、 来年以降も安心安全な海水浴場へ更なる期待が持てる事例となりました。

Fig. 8　4台のWebカメラの配置

近況報告③ 須磨海水浴場

神戸市海岸防災課　塩見勝宏氏

■2020 年の概況

2020 年の神戸市須磨海水浴場は、他のブルーフラッグビーチと同様に新型コロナウイルス感染症の影響により不開設といたしました。理由としては、①万全な感染症対策ができず利用者の安全を約束することができない。②ライフセーバーの要請・研修・訓練ができずに人数を確保することが困難であり、万全の水難事故対策ができない。ことが挙げられます。その際、徹底した感染症対策を講じた一部エリアの開設についてご意見もあり検討を行いましたが、須磨海岸は東西 1.8km に渡る非常に広い海岸であるため、自由に出入りできる箇所も多く、一部を開設することによりそれ以外の場所への人の流入によって、遊泳されてしまう懸念があったことから一部開設も見送りました。また、不開設に関しては 2020 年 5 月 27 日に記者資料提供・プレス発表を行いましたが、この前後には海水浴場開設者だけではなく、海岸管理者の立場にある都道府県からのご相談・お問い合わせも非常に多くありました。

我々神戸市は海水浴場開設者でありながら海岸管理者でもあるため、他の都道府県が興味をもたれたのだと思います。海水浴場開設者と海岸管理者の連携等については、今後の大きな課題であると認識しています。

■ブルーフラッグを取得した効果とメリット

須磨海岸・須磨海水浴場ではハード面での「海岸再整備」を行いつつ、ソフト面での「健全化」を進め、その後に「四季を通じた活性化」をという進め方をしています。再整備や健全化を進めるには多大な費用が必要であり、税金を注ぎ込む必要があることから市民の理解をきちんと得る必要があります。そこで、その成果の評価指標として着目したのが国際環境認証であるブルーフラッグでした。「健全化」については、平成 20 年に「須磨海岸を守り育てる条例」を制定して、多くの行為を規制し、海岸における禁止事項等を海岸に掲示する看板に表示しています。須磨海岸は、「子どもを連れて家族で行きたくなる海水浴場」を目指しており、こうした規制を設けることで職員や警備員等による指導を徹底し、その効果が徐々に表れており、健全化が進んできていると思います。

ブルーフラッグの取得に関しては、美しい海岸・海水浴場を守ろうとする人々の共通の目標となります。これは地域協同の大きな推進力になると考えています。

環境問題の取組みについても須磨海岸・須磨海水浴場をフィールドとして取り組む事例が増えてきていますのでご紹介します。

「ぼくらは海のちょうさ隊」

須磨海岸に隣接する須磨海浜水族園で年末年始に「ぼくらは海のちょうさ隊」という展示会は神戸市の観光局・市内の各学校が参加して行われました。スーパーサイエンスハイスクールの指定を受けている六甲アイランド高校をはじめ、市内の中学校や高等学校が海洋ゴミ、マイクロプラスチックに非常に興味を持っており、多くの生徒がこれらについて知り・学び・調査し・発信する取り組みとなっています。

「中学生 300 人砂浜清掃」

兵庫県が取り組む「トライやる・ウィーク」という体験活動週間の一環として、地域の中学生が海岸でのゴミ清掃を体験し、砂浜に含まれるマイクロプラスチックの調査や、拾ったプラスチックごみ・ペットボトルごみを利用した大きなウミガメのプラスチックアートの作成を行い、須磨海浜水族園や市内小学校で展示をしています。これは小学生や中学生、市民の方々に海洋ゴミやマイクロプラスチックについて知って頂き、考えるきっかけになって欲しい。という思いからの取組みです。

■with コロナ、after コロナにおけるブルーフラッグの価値

ブルーフラッグに関しては自然環境の保護に留まらず、ビーチ利用環境の安全・安心を約束する指標となることが必要と考えています。具体的には各業界団体等が新型コロナ感染防止ガイドラインを策定して公表していると思いますが、これと同様にブルーフラッグビーチにおいても、「海水浴場開設ガイドライン」といったような、海水浴場における感染防止ガイドライン等を作成して、海水浴場開設者や利用者に示していくことが求められるのではないかと考えています。

2020 年、海水浴場の開設判断時点においては新型コロナウイルスへの対応が手探りの状態でした。また、ブルーフラック認証に関しても事務局から感染症対策について具体的に示されない状況でした。世界には多くのブルーフラッグのビーチがあるため世界のノウハウを共有頂き、日本のビーチに適用できる先進事例を取込み、情報共有しながら新しい基準を見つけていきたいと考えています。

ところで、2020 年夏は海水浴場利用者の安心・安全という観点から、海水浴場を開設しない海岸の安全管理について課題が見えてきたように考えています。神戸市で課題として考えているのは水上バイク・プレジャーボート等の取り扱いです。これらの課題について、神戸市としては海水浴場開設者であり海岸管理者でもあることから、我々が先陣を切って取り組んでいかなければならないと考えています。

2020 年夏のように海水浴場を不開設とした場合に限らず、法令等による規制だけでは実効性を伴わない場合やオイルフェンス・警戒船などで水上バイク・プレジャーボートを物理的に排除できない場合でも、海水浴期間中に同じことが起こりえるのではないかと危惧しています。安全な海水浴場の前提として、安全な海岸であることが必要不可欠と考えていますので、海水浴場開設者として、ブルーフラッグ取得を目指すものとして決して無視できない課題と考えています。

現在、神戸市においてはこうした事案を重く受け止めておりますので、港湾管理者・警察・海上保安庁・陸運局等の関係者を含めて検討会を立ち上げて話を進めているところであり、今後も皆様と情報共有していければと考えています。

■2021 年度の海水浴場開設に向けた課題

2021 年の夏を迎えるにあたり、開設準備の前提となる状況（新型コロナウイルスの感染状況、ワクチンの接種状況等）が非常に不確定であり、2020 年夏に対応しきれなかった事をしっかり今後準備していくこと以外、画期的な対策案は現在のところ持ち合わせていない状況です。今後の動向を注視して、しかるべき対応を少しずつきっちりと検討していくことを考えています。ただ、2021 年夏の海水浴場開設のためには、2020 年夏にあった海岸に大勢の人が訪れたことでクラスターが発生するのではないか、地元住民の方々が抱えた不安に対して、これを払拭するだけの感染防止策、安心感をどのように提示して、伝えていけるのかが非常に大きな課題だと思います。

他のブルーフラッグビーチと大きく異なる点だと思いますが、須磨海岸・須磨海水浴場の背後地は、来場者増加で喜ぶ・潤う飲食業界・観光業界がほとんどありません。住宅地がすぐ背後に控えていますので、地元住民が求めているのは、たくさんの人が訪れることによる「賑わい」ではなく、まずは「安全な暮らし」という状況です。これを最優先に考えていかなければなりません。

昨年 4 月からの緊急事態宣言により、府県を跨ぐ移動の自粛を強く要請されました。このとき海岸に設置した看板やメディアを用いて、海岸利用の制限やルールの徹底、感染拡大防止意識の徹底に努めました。また、波打ち際 30~40m おきに大きな看板を設置することで海岸利用者への感染防止を促し、メディアでも大きく取り上げて頂きました。

■今後に向けて

現時点においては、2021 年は海水浴場を開設する前提で準備を進めていますが、きっちり状況をみて判断をする必要があり、その際には厚生労働省の接触確認アプリや LINE、メールを活用した兵庫県の新型コロナ追跡アプリ等のツールを利用していきたいと考えています。万が一問題が発生した場合にも速やかな対応が可能となるよう、例えば海水浴場の一部エリアに予約利用制を導入するなど、先進的な考えも取り入れて開設をしていきたいと考えています。

また、皆様がお持ちの案も情報共有させて頂き、日本全国の皆様に海水浴場を安全に楽しんでいただければ考えており、是非ともご協力をお願いしたいと思います。

近況報告④ 本須賀海水浴場

山武市わがまち活性課　鈴木昌子氏

■ブルーフラッグの現状と課題

山武市は、2018 年 4 月に椎名千収前市長のご勇退に伴い県会議員だった松下市長が就任されました。松下市長は県議時代からブルーフラッグに興味を持たれており、就任直後にブルーフラッグ取得ができないかとの話がありました。そこで、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催も見据えた上で、2019 年の取得を目標に準備を始めました。

FEE Japan 伊藤理事長、またブルーフラッグを取得されている先輩方からアドバイスを頂き、2019 年 4 月に初めて認証取得をし、2020 年度も取得をすることができましたが 2020 年についてはコロナ禍において海水浴場は不開設となっています。

■ブルーフラッグの取得と取組み

2019 年のブルーフラッグ取得においては、自治体の職員が出向いて実施する出前講座のメニューに、ブルーフラッグに関する講座を追加しました。6 月には市内にある千葉県立松尾高等学校 1 年生に向けて、講座を実施しました。また、7 月には 2 日間に渡る環境教育を行いました。1 日目は総勢 50 名近くの方にご参加頂き室内での座学を中心とした環境教育を実施しました。2 日目はビーチでの環境教育で総勢 66 名の方がビーチクリーンやビーチの植物観察を実施しました。午後からは、老人介護施設の屋上への避難を想定した津波避難机上訓練を実施しました。この訓練には地元警察、施設関係者、ライフセーバー等にご参加頂きました。

ブルーフラッグを取得しての初めての記念すべき海開きは、県にもご協力を頂き、森田健作知事にご出席を頂きビーチでのフラッグ掲揚を行い、盛大なセレモニーを実施することができました。その後、山武市出身の世界的ダンサーの菅原小春さんによるビーチでのキッズダンス講座・ダンスイベントを開催し、とても盛況のうちに終えています。

■2020 年の概況とブルーフラッグを取得したメリット

2020 年の取組みとしては、山武市には海水浴場を開設する海岸が 6 か所ありますが、そのうちの一つである本須賀海岸には駐車場が常設されています。この駐車場の開場に伴いビーチへたくさんの利用者が訪れることが予想されることから、駐車場警備員の配置を行いました。また、ビーチを訪れた方を対象に、4 日間に渡り海の安全教育や環境教育を 100 名近い利用者にご参加頂くことができました。

山武市ではブルーフラッグの取得に関する取り組みは行政主導で行いましたが、今までつながりのなかった市民や団体と連携をすることができました。また、海水浴場開設は、旧町村時代からルーティンワークとして開設をしてきましたが、担当職員が問題意識をもって取り組むことができました。

最後に、ブルーフラッグの目的からは外れますが、千葉県初の取得であったことから山武市の PR に繋げることができました。ブルーフラッグ取得により、他の海水浴場との差別化が図れる点や、ブルーフラッグ認証取得基準の多くが、情報提供やマネジメント、安全対策に関連しており、コロナ対策の情報共有が容易であることが価値であると考えています。

■2021 年海水浴場開設に向けた課題

2021 年については、ライフセーバーの資格の取得ができない状況や、訓練が行えていない状況から海水浴場開設にあたり、ライフセーバーの確保が一番大変であると考えています。また、山武市においてはライフセーバー宿泊用の施設の借り上げを行っていますが、新型コロナ感染防止を考慮した施設の確保が難しい状況です。その他、コロナ対策による経費の増加や、東京オリンピック・パラリンピック開催と海水浴場開設期間の重複、千葉県との温度差等が課題として挙げられます。

■まとめ「山武市の特徴と課題」

山武市の特徴は以下の 4 点です。

① 行政主導でブルーフラッグを取得した。行政主導のメリットとしては、事業としての予算確保が容易であった。申請書類作成は困難だったが、行政職員は書類作成に慣れている。ステークホルダーとの連携。広報ツールが多いこと。
② 本須賀海水浴場は常設トイレと駐車場を完備している。
③ 日本ライフセービング協会の資格取得者が監視業務を実施した。
④ 本須賀波乗り倶楽部のビーチクリーン活動がある。

また、山武市の課題は以下の 3 点です。

① 千葉県との関係：県のブルーフラッグ担当部署が確立されておらず、対応が困難だった。
② 地元の総意がくみ取れていない：行政主導故、管理委員の設置が困難。
③ 市町村合併から 14 年しか経過していないため、全市での取組みになりにくい（内陸部の旧山武町、旧松尾町。沿岸部でも旧蓮沼村と本須賀海岸のある旧成東町は、海水浴場に関する習慣が違う）。

最後になりますが、ブルーフラッグビーチ連合で、コロナ禍を乗り切りましょう！ご清聴ありがとうございました。

第3部 活動紹介

ブルーフラッグ取得に向けた取組

①片瀬西浜・鵠沼海水浴場

江の島海水浴場協同組合　豊原洋紀氏

当組合の森井理事長は地元江の島の顔であり、今年の夏に片瀬西浜・鵠沼海水浴場へわが国では民間初のブルーフラッグを掲げるため、全力を尽くしています。

当海水浴場は、近隣に日本初のブルーフラッグビーチ由比ガ浜海水浴場、それと来年ブルーフラッグの認証取得を目指そうとしている逗子海岸海水浴場があり、西には富士山、左には江の島が見えます。ビーチの背後地に新江の島水族館があるのは須磨海水浴場と似ています。

昨年夏の活動報告になりますが、あいにく新型コロナで海水浴場が開設できませんでした。しかし、日本初のドローンを活用した海岸パトロールの実施し、さらに、7 月 8 月に湘南ビジョン研究所や地域の方との協同で計 18 回のビーチクリーンを行い、多い日は 7、80 人の参加がありました。なお、当海水浴場のビーチクリーンは、9 月以降も第三日曜日に新江の島水族館主催で続けています。また、8 月 3 日には江の島で湘南ビジョン大学の開校式とブルーフラッグの勉強会を行いました。あと、ブルーフラッグの水質調査をライフセーバーの協力のもと行いました。今後ともよろしくお願いします。

②逗子海岸海水浴場

逗子海岸営業協同組合　勝田康司氏

逗子海岸海水浴場では、来年にブルーフラッグの認証取得を目指しています。ただし、現時点では逗子市では正式決定はしていません。昨年夏はビーチクリーンと海岸パトロールを行いました。また、ビーチから駅に帰る際、まちにごみのポイ捨てをする方が多いため、地域の方々と連携してその対策を行いました。

（片山）ブルーフラッグはビーチの他にマリーナでも取得できます。そこで、逗子マリーナもブルーフラッグの認証取得を目指しています。2020 年に同時取得で広く発信したいと思います。

第4部 意見交換

コロナ禍におけるブルーフラッグの意義と展望

■質問者
聴講者の発言・チャット
■回答者

伊藤正侑氏	NPO 法人 FEE Japan 理事長
角田裕亮氏	鎌倉市観光課
高田慎平氏	一般社団法人若狭高浜観光協会
塩見勝宏氏	神戸市海岸防災課
鈴木昌子氏	山武市わがまち活性課
豊原洋紀氏	江の島海水浴場協同組合
増田元秀氏	由比ガ浜茶亭組合　組合長
片山清宏氏	NPO 法人湘南ビジョン研究所　理事長

Q 一般 ブルーフラッグ取得による市民のメリットは何ですか？

鈴木 今のところ目に見えるメリットはありませんが、海が市民にとって身近になることが一番のメリットだと思っています。危険なイメージから、「海は良いところ」「癒される場所」というイメージに変えていきたいです。

高田 正直なところまだありませんが、住民に還元されるという直接的なメリットというよりは、環境に還元されて、それが市民のメリットになると考えています。

片山 海離れが進む中、地元の海が BF を取得し、世界に誇れる海になることで、地元の海を見直すきっかけになり、地域愛が生まれることになればいいですよね。

増田 BF を取得したらすぐにメリットがあるというわけではなく、取得に取り組んできた者達に知恵や団結、絆などが生まれ、結果それがメリットを生み出す最大のツールになるのではないでしょうか。また、海水浴場が国際環境認証団体から認められることで、今まで交渉できなかった企業や団体とコラボできるようになるなど、取得後に新たなやりがいや、やるべきことが見えてくるのではないかと思います。

角田 小学生、中学生などから授業の一貫でインタビューを受けることが多くなりました。
そういう意味で、BF への認知度、環境問題への意識が高まっていると肌で感じています。また BF 取得を通じて他の自治体との新たなつながりも生まれました。

片山 取得してすぐの頃は、市民の方にあまり認知されていませんが、2 年、3 年、更新していく度、認知度も上がっていくと思います。

Q 豊原 当組合も江ノ島水族館と一緒にビーチクリーンを行うなど、コラボ企画を少しずつ進めていますが、須磨海岸では水族館とどのようにコラボ企画を進めていったのでしょうか？

塩見 市立の水族園ということもあり、もともと環境教育に取り組まれていました。そこに BF も加わり、お互いに須磨海岸エリア全体を盛り上げていく共通認識を持ち、お互いにメリットのある取組をしていきましょうと話しています。

豊原 我々も水族館と共に取り組んでいるという共通点がありますので、今後もいろいろなアドバイスを頂けたら嬉しいです。

伊藤 いろんな方々と協力する上で、「委員会」というきっちりとした会合でなくても、例えば「BF コミュニティ」のような名前で、一緒にコラボしたい方々を気軽に誘い、オンラインでも集まる形が良いと思います。いろんな方々と協力するという意味では、唯一、山武市は県知事も呼んでイベントを開催するなど、県とのつながりが見えていますよね。

鈴木 県知事を呼ぶには担当部署を決める必要があり、まずは BF 取得を担当する部署探しから始まりました。結果、循環型社会推進課という環境の部署が担当して下さることになり、知事とのやりとりが始まりました。また、山武市は清掃などの日常管理を県から委託を受けて実施していることもあり、実現しやすかったのかもしれません。今後ももっと県にイベントに参加してもらいたいと思っています。

Q 一般 日本海沿いの市の職員ですが、いま同市でも海岸を良くしていこうという動きがあります。しかし、現状ではまだまだ BF を知っている市民の方が少ないので、どのようにしたら多くの方に認知してもらえるでしょうか？

高田 BF 取得 5 年目ですが広報は悩んでいます。
町内や県内の方にはある程度認知して頂けたのかなと思っていますが、まだまだ少ないのが現状です。初年度は機関紙をつくって、町内の各家に配布したり、YouTube や SNS の運営を通してコミュニケーションの場をつくるなど、地道に活動していますが、国内の BF 取得ビーチがまだまだ少ない状況ですので、これからなのかなと思っています。

一般 同じ日本海ですので、一度、高浜町にお伺いさせて頂きたいと思います。

Q 一般 フラッグ取得による納税する市民や利用者側のメリットはどんなものがありましたか？

鈴木 目に見えるものはありません。海が、市民にとって身近なものになるように活動していくのが一番のメリットです。海が危ないところ、と小中学校でいわれています。親と一緒にいかなきゃダメだよ、など。海って良いところだよ、癒されるところだよ、という風にしていきたいです。

高田 今は正直、直接的なメリットはありません。これからつくっていきたいと思います。基金的なものとか、住民もそうだが環境に還元される仕組みつくりたいです。

片山 海離れという中で、子供、親、若い人が、ブルーフラッグによって地元の市民が地元の海を見直すきっかけになれば。自分たちの地域や海に誇りを持ち、地域愛が生まれたら良いことです。

Q 一般 ブルーフラッグの 5 地域、更新できている状況なのでしょうか？

伊藤 現在、4 つのビーチは更新継続しました。ただし、2020 年の夏は海水浴場の開設できなかったので、ブルーフラッグも揚げられませんでした。継続の 4 か所と新規の 1 か所は国内審査を通過しました。最終的な結果は 4 月の国際審査で出ます。

片山 うまくいけば、5 月には日本で 5 つ目が誕生します。そして来年は逗子海岸、逗子マリーナが続ければと。インドが 8 個なので、日本も 10、20、30 といきたいです。逗子と接する由比ガ浜ではいかがでしょうか。

角田 鎌倉市ではブルーフラッグ取得に係る費用には税金が入っていないため、公費が入らずすべて由比ガ浜茶亭組合が負担しています。現状はブルーフラッグを知らないで来る方もいます。効果としては、夏休みの自由研究で興味を持った小中学生からインタビューを受けることが多くなりました。今年はコロナで来られませんでしたが、2019 年は監視所に直接ブルーフラッグのことを聞きに来る小中学生が多かったようです。環境への意識、ブルーフラッグへの意識が広がっているのではないかと、数字はとれていませんが肌で感じています。逗子、藤沢と横のつながりが広がっています。事業者主体ではありますが、地域にも浸透していると感じます。

片山 ブルーフラッグは、取得初年度は知らなくても、2 年 3 年と更新していくと浸透していきます。毎年継続が重要。鎌倉市は税金投入ゼロ、逆に山武市は市長が音頭をとったので税金投入してすすめた。

Q 豊原 神戸市須磨の塩見さんに質問ですが、子供への教育も考え水族館とコラボしたい。水族館とどのようにコラボすすめましたか。

塩見 水族館と具体的なやりとりをしたことはありません。市立の水族館がそもそも環境教育に取り組んでいました。そこにブルーフラッグが乗っかり、コラボがどんどん広がっています。須磨海水浴場をフィールドとして研究してもらえる流れになっているのではないでしょうか。シャチを展示する水族館の運営

主体が今後フジサンケイグループに変わりますが、市営の海岸と水族館のある海浜公園のコラボに水族館も引き続き入ってもらい環境教育に取り組みたいです。須磨海岸エリア全体として盛り上げ、お互いにとってメリットのある再開発、取り組みにしていきたいです。

豊原 新江ノ島水族館も民間企業、当組合も民間団体、なので地域をとりまとめてみんなで作り上げていくブルーフラッグと認識しています。西の須磨海岸、東の江ノ島は課題も含め近いのではないでしょうか。これからもよろしくお願いします。

増田 メリットの答えがみえてきています。ブルーフラッグを取得したからすぐメリットあるのではなく、ブルーフラッグはメリットをつくる最大のツールです。ブルーフラッグがリーサルウエポンとなってさまざまなメリットを生み出す。知恵、組織の団結・絆、といったものをつくっていくのは取得した我々です。取得したからといって神様がなにかを与えてくれるわけではないです。それを契機にこれからすすんでいく、という風に理解してほしいです。取得してからの方がやりがいもあるし、やるべきことが見えてきます。この認識をみなさんに共通してもって欲しいです。

Q 伊藤 山武市の鈴木さんへ質問です。千葉県との温度差について教えてください。みなさんに協力してもらうためにフックとして、必須基準ではなく努力基準と伝えています。海水浴場管理委員会、ブルーフラッグコミュニティ、仲間になってくれそうな人を引っ張ってきて、チームをつくるという風にとらえてほしいです。

コラボしたい人に「ブルーフラッグチームに入ってくれませんか」と軽い感じで入ってもらい、オンラインでもかまわないので1時間以内の会合をする、のような軽い感じで集まって、関わってもらうという感じのイメージでとらえてほしいです。

5地域の申請がありますが、県の影はあまり見えませんが、唯一山武市は県が見えています。県とつながっているイメージですが、そのあたりはどうでしょうか。

鈴木 平成26年に高浜町を呼んでブルーフラッグのセミナーを県がやっています。商工労働部観光企画課が招待しました。山武市がブルーフラッグをとる、という話を県にした際に循環型社会推進課が担当してくれることになり知事を招待してくれました。担当部署がきまっていないと知事は呼べません。

山武市の海は保安林など規制多いです。ビーチは道路から遠く、各ビーチの入り口には門があって鍵がしまっています。保安林に人が入らないようにとハードの部署は人を締め出したい、観光の部署はお客さんを呼びたいなど、市町村としてはとまどってしまうこともあります。このため、千葉県が整理してくれるとうまくいくと思います。

千葉県は海水浴場の開設は届け出制、県は関係ないといわれますが、県には「そういうものではない」と伝えています。山武市は掃除を県から委託をうけてやっていますので、県との連携がやりやすかったのかも。県にはブルーフラックにもっと関わってもらいたいと思っています。

Q 一般 昨年12月から日本海沿岸のふるさと創生職員として勤務しています。観光振興課に所属し、海岸を良くしていく動きの中でブルーフラッグは地方創生にもつながるというイメージを持ちました。しかし、市民も行政もBFを知らず、どうすれば知っていただけるようになるか？アドバイスしてください。

高田 ブルーフラッグ5年目、広報について悩んでいます。町内の人にはある程度認知してもらえましたが、まだまだ少ないです。初年度は紙の配布物をつくり町内に配りました。今年はYouTubeも。SNS運営も進めています。各種イベントやパンフレットを作ったりして地道に活動しています、まだまだこれから、あと10年頑張りたいです。

一般 同じ日本海で近いので助けてほしいです。

片山 内部から問題意識をもっていただけるのは本当に良いことです。ブルーフラッグをどう広げるか、取り組んできましたが、素晴らしい事例ができてきたので、今日参加の80人が核になればいろいろなことを発信できます。土田さんぜひ一緒にやりましょう。我々応援します。良いご縁ができました。

鈴木 山武市では公式SNSがありませんでした。そこで、市民広報誌ではページ割いてもらい、「菅原小春」さんの特集を5月号でしてもらったりして、ブルーフラッグというキーワードはそこそこ広まったと感じています。
ライフセーバーの学生さんにも、市の公式YouTubeができたので、短い動画をあげてもらう予定です。その中でBFも広めていきたいです。

Q 一般 神奈川生まれ育ちです。七里ガ浜のビーチが侵食しており、すごく残念です。20 年グラフィックデザイナーとして広告制作してきました。今後は SDGS にかかわることで自分の経験を活かせればと。どうすれば関われますか。

増田 湘南ビジョンに入会してはどうでしょうか。

角田 こうした話は多いので特定ピックアップは難しいです。まずは海での活動に参加していただくのがよいのではないでしょうか。特にブルーフラッグに関するイベントに。七里ガ浜は海水浴場ではないので管理者は神奈川県となります。ちょうどいま相模湾沿岸海岸侵食対策計画についてのパブリックコメントがでているはずなので、そちらを見てみてはいかがでしょうか。

ブルーフラッグは、湘南ビジョン等と海での環境教育活動をしているので、今後発信も強めるためぜひ参加してください。ブルーフラッグといっても、地域によってはそれぞれ課題が違います。このため、地域にそった課題を体感するのはやはり現場でみてもらうのがよいと思います。課題に対して地元がどういう活動をしているかを見てもらえたら。

片山 ぜひ一緒にやりましょう。見せ方、こだわりたいです。チラシ、ポスター、ホームページ、動画、SNS、課題として我々もやっています。NPO なのでお金はありませんが、今後は企業の協賛も得て持続可能な仕事にしていきたいと考えています。

Q 一般 勉強になりました。片瀬でも由比ガ浜でもやっていて、さらに逗子でもと取ろうとしている。鎌倉市の腰越としては恥ずかしいです。腰越はどうするのでしょうか。やってないのは腰越だけですよね。

角田 鎌倉市では材木座もやっていません。地元の団体、市がうまく連動する必要ありますが、いまのところブルーフラッグを取得したのは、いずれも市でひとつの海水浴場です。一足飛びには難しいですが、少しずつ広がっているのは良いことです。

総括・講評

文教大学国際学部教授　海津ゆりえ氏

片山　全体を踏まえて総括を海津先生からいただければと思います。

海津　改めまして皆様、今日は朝からお疲れ様でした。あっという間に 3 時間が経ちました。最初このコロナの中で BF サミットが開催できるのかと言う相談から始まったと思います。結果的には開催して本当によかったと思っています。10 年目というのも感慨深いものがあります。

総括と言う事で、BF の特徴とはどんなことだったのか、BF の効果はどんなことが考えられるのか、そしてアフターコロナのなかどんな心持ちで今後進めていったらいいのかと言うことを私なりにお話をさせていただければと思います。

■BF 認証

冒頭で BF の特徴について伊藤さんからお話をいただきました。私の整理では、BF には 4 つの特徴があると思っています。

1 つは、国際環境認証であると言うこと。国際基準に照らしているので、相当に厳しい、目標とするべき項目が予め与えられていることです。ただ見ていくと基本的なことばかりが書かれている 33 項目で、一つ一つ達成するのにとても努力が必要でも、達成すれば確かに自分たちの道が良くなると言う実感が持てる、目標となるものばかりであることがよくわかりました。

2 つ目の特徴としては、目標を達成するためにはかなりの知識と技術、働きが求められることです。専門的な人たちの働きが必要なので、各地域では専門家を探し出し、持てるノウハウを結集して取り組まれていると言うご紹介がありました。例を上げると鎌倉市は、ライフセーバーと提携したり、由比ガ浜茶亭組合の力を借りたり、山武市では今回初めて環境教育の先生にお願いしましたということもありました。

このような方々を活用する必要がでてくるということです。一つの主体で全てが実現するわけではありません。また BF に必要とされることで、専門性が磨かれていくと思います。

3 つ目は連携が必要とされると言う事です。縦方向の連携と横方向の連携と 2 種類出てきていたと思います。山武市は典型的でしたが、県と市の関係、そして市と市民とのつながり。須磨海岸も市民に向けての海水浴場と仰っていました。市民とどのようにして一緒にビーチを維持していくかが重要とのことでした。高浜町も地元の YouTube などの専門家の力を借りて進めていくとのこと。まさに実践的なネットワークが生まれてくるのが、BF の特徴だと思います。このサミットも横のつながりです。コロナ禍の今を慰め合うことができ、解決できないことも情報交換できる等、精神的な支えの役割を果たしていると思います。

4 つ目の特徴は、このように「共に歩める仲間」が生まれることです。色々な環境認証が世の中にあります。産業障壁を作ることや、ブランディングを目的とする認証は少なくありません。BF 取得の背景にそのようなこともあったかもしれませんが、今はむしろつながりが意識されていると思います。

■BF のメリット

BF のメリットは 3 つあると思います。

1.地域にとってのメリット

一つは、海に対するまなざしが生まれることかと思います。BF をどうすればみんなに知ってもらえるかという質問が先ほどありました。いきなり BF を伝えるのは難しいけれど、その手前に「海を知る」活動があると思います。海を見守ること、学ぶこと。「知る→見守る→学ぶ」中に、地域で活動している方々の様々なお仕事が生きてくると思います。

2.横のつながりのメリット

今年、私も江の島や由比ガ浜にビーチクリーンに通い、初めて出会う人たちが活動されている姿を見てきました。お互いを知ることはお互いを生かすことになります。何か新しいことをしようとしたときに、これは重要なことです。地名を聞いただけで、ああ、あの人、あのビーチというように頭に浮かびました。私たちは、陸から海を思う者同士として、今、繋がっています。今度は、海を介して世界と繋がることができます。

山武市マスコットキャラクター
SUNムシくん

これは BF の大きなメリットだと思います。世界が海を通して繋がっているという宇宙船の目線を獲得したのだと思います。

3.次の世代へのメリット

BF 全体の目標は SDGs の達成目標でもあります。つまり、次の世代にどういう海を残していくのか、ということで、この発想も私たちが BF を通してしてもらいました。

メリットというのは、何かを乗り越えた時に最大限に感じることができます。課題が見えているから、それを解決すると言うことによって大きなメリットとして感じられるのだと思います。

■2021 年何をするべきか

今年は BF についてどんなことを行えばいいでしょうか。今はコロナ禍で悩んでいますが、多くの海岸は、津波などの防災のチャレンジをされてきたと思います。何が言いたいかというと、災害は必ず来るということです。それを前提として、「続ける」ということを皆さんと確認したいと思います。その上で、BF を通して私たちは何を達成したいのか、という少し遠い目標を立てて、皆で共有をすることが必要です。

また、仲間を増やすことも大切だと思います。地域の中での連携や、組織や地域を超えた市民のネットワークを強化していくと言う事です。それから、インドに負けないように（笑）、日本国内の BF の仲間をたくさん増やしていきたいですね。

片山　以上でジャパンサミット 2020 年を終わりたいと思います。最後に、統計で 100 人ほどの方にご参加していただきました。ここに集まった 100 人程の私たちで、中心になって広げていくエンジンになりたいと思います。SDGsの期限は、2030 年なのでそれまでに日本で BF の認証を 100 カ所にしたいと思っています。全国のビーチは、1000 箇所ぐらいあるのですが、BF 認証ビーチがトップ 10%を取得し、日本の海の環境を引っ張るような一員として参加しているメンバーで一緒に作っていきたいと思っています。

朝早くから集まりいただきまして本当にありがとうございました。発表していただいた皆さんありがとうございました。この活動はずっと継続していきたいと言うふうに思っています。

★編集スタッフ

壱岐 信二
富山 渉
中森 英典
品田 雄偉
伊藤 美保
安江 省吾
白取 朋恵

参考資料

ブルーフラッグ認証取得状況に関するアンケート調査結果　（NPO 法人湘南ビジョン研究所　2021 年 1 月実施）

1　報告者

海水浴場の名称	由比ガ浜海水浴場
報告者の所属・氏名	鎌倉市市民生活部観光課　角田裕亮

2　報告内容

①ブルーフラッグを取得した効果・メリットは何でしょうか？	BF 認証を取得したことで、海水浴場が単に環境面で優れていることを証明するだけでなく、海水浴場を取り巻く地域の方々をはじめ、海水浴場に関わる全ての方の環境に対する理解を醸成することにつながり、多方面で持続可能な海水浴場運営に寄与することから、海水浴客及び関係団体から一定の信頼を得られていると考えます。
②with コロナ、after コロナにおけるブルーフラッグの価値は何だと思いますか？	with コロナ、after コロナにおいては、これまでより衛生面での関心が高まっているが、衛星面に対しての証明のひとつとなりうる価値があると思われる。
③2021 年度の海水浴場開設に向けた課題（コロナ対策など）があれば教えてください。	2020 年度と同様に、2021 年度も神奈川県から海水浴場開設に関するガイドラインが示されると思われるので、その内容に対して、どういった形で対応していくかということ。

参考資料

ブルーフラッグ認証取得状況に関するアンケート調査結果　（NPO 法人湘南ビジョン研究所　2021 年 1 月実施）

1　報告者

海水浴場の名称	若狭和田海水浴場
報告者の所属・氏名	一般社団法人　若狭高浜観光協会　高田慎平

2　報告内容

①ブルーフラッグを取得した効果・メリットは何でしょうか？	海水浴場が持続発展していけるための仕組みとして、活動を続けていくたびにその奥深さを感じる。長期的視点でみると特に高浜町における環境教育は、幼児、小学生、中学生において高い水準にあると感じる。教育機関の協力が大きく今後も力をいれていきたい。 また、高校生以上においては、大学教授を招聘した専門的な環境教育の講演会も始まったことや、民間同士が連携し新たなプロジェクトが生まれるなど、今後に期待できる。 一方で短期的な視点においては、住民から批判的な意見を聞くことも少なからずある。 SDGs の観点からも社会・環境・経済のバランス（特に経済面でご意見をいただく）をとっていくことが今後の課題であると感じる。 高浜町の現状のバランス：環境＞社会＞経済。
②with コロナ、after コロナにおけるブルーフラッグの価値は何だと思いますか？	地域ごとに違った魅力や課題を抱える日本の海水浴場、またはブルーフラッグは、各地域がコミュニケーションをとりながら、共有したり、切磋琢磨し、個性を発揮することで日本の海水浴場の多様性が持続発展していけるのだと信じております。 コロナをきっかけに日本人が海や海岸で何かをしたり、過ごしたりすることができる、新たなライフスタイルを作っていけることがこれからの価値になると思います。 また、次のステップとして世界とのコミュニケーション、課題や成果の共有も担当者レベルで行っていければと思います。
③2021 年度の海水浴場開設に向けた課題（コロナ対策など）があれば教えてください。	②を実現していくためにも、安心安全な海水浴場であることを利用者に明確に示し、PR していくことが重要な課題であると感じる。 また、浜茶屋も率先して対策を実行するとともに、利用者も自ら感染対策をとることで、「だれもが安心して利用できる新たな海の遊び方を、関係機関、管理者、利用者全員で作り上げる」という意識を全員が持つことが必要である。

参考資料

ブルーフラッグ認証取得状況に関するアンケート調査結果　（NPO 法人湘南ビジョン研究所　2021 年 1 月実施）

1　報告者

海水浴場の名称	須磨海水浴場
報告者の所属・氏名	神戸市港湾局海岸防災課　塩見　勝宏

2　報告内容

①ブルーフラッグを取得した効果・メリットは何でしょうか？	須磨海岸は健全化と活性化を目指して、海浜清掃、ルール作り、環境教育、イベント開催、利用者のマナー向上、騒音対策など様々な取り組みをこれまで行ってきたが、白砂青松の美しい須磨海岸を将来に渡って引き継いでいくためには、今後も地域の方々と協力してこうした取組みを継続し、課題を解決していくことが必要である。 一方で、関係者が多くなると、さまざまな利害関係が生じて舵取りが困難となることもある。こうした際に国際環境認証の取得といった、関係者がまとまって取組むに当たっての共通目標や動機付けが必要であり、ブルーフラッグ認証の取得は、今後の地域との協働の大きな推進力になると考えている。
②with コロナ、after コロナにおけるブルーフラッグの価値は何だと思いますか？	With コロナや after コロナにおけるブルーフラッグの価値を現段階では評価することが難しい。 2020 年において、感染防止策等について相談を行ったが、国や都道府県によっても感染状況が異なるため、どのような対策をすれば、「安心・安全なビーチ」と言えるのかについては、国や都道府県の指示に従うよう言われるだけで明確な回答がなかった。 現在のところ国内では、外食産業などの各業界団体が業態別に感染防止ガイドラインを策定しているが、ブルーフラッグとしても海水浴場における感染防止ガイドラインを策定するべきではないか。そして、ブルーフラッグを取得している海水浴場は、世界の知見を集めてこのような対策をしているので、安心・安全ですという共通メッセージを発出してはどうか。まさにブルーフラッグを取得する真価が問われていると考えている。
③2021 年度の海水浴場開設に向けた課題（コロナ対策など）があれば教えてください。	2020 年は、4 月に発出された緊急事態宣言を受け、都道府県を跨ぐ移動の自粛が要請された。その間、他府県ナンバーの自動車に対して嫌がらせ行為を行う市民が「自粛警察」としてメディアに連日報道されるなど、市民にとっては新型コロナウイルス感染に対する不安が大きくなっている状況であった。 こうした状況の中、須磨海水浴場は市外からの利用者が多く、市民の不安がさらに増大する恐れがあったことや利用者の安全監視を担うライフセーバーの国保が困難と判断されたことから、海水浴場の開設を断念した。 2021 年は新型コロナウイルスの感染拡大をいかに防止し、感染防止（ソーシャルディスタンスの確保、アルコール消毒液の設置など）を徹底することを市民に広く理解してもらい、市民の不安を最小化することが海水浴場を開設する上での重大な課題となっている。

参考資料

ブルーフラッグ認証取得状況に関するアンケート調査結果　（NPO 法人湘南ビジョン研究所　2021 年 1 月実施）

１　報告者

海水浴場の名称	本須賀海水浴場
報告者の所属・氏名	山武市　経済環境部　わがまち活性課　副主幹　鈴木　昌子

２　報告内容

①ブルーフラッグを取得した効果・メリットは何でしょうか？	●山武市の場合は、行政発で取り組んだが、今までつながりのなかった市民や団体と連携することができた。 ・本須賀波乗り倶楽部、食虫植物ボランティアガイド、地元漁業者等。 ●旧町村時代から、ルーティンワークとして海水浴場を開設していたが、担当職員が問題意識を持って取り組めた。 ・海岸に関する法令等の学習など。 ●BF 認証取得の本来目的ではないが、市の PR につながった。 ・千葉県初の取得。
②with コロナ、after コロナにおけるブルーフラッグの価値は何だと思いますか？	●他の海水浴場との差別化ができる。 ・認証取得基準の多くが、情報提供やマネジメント、安全対策に関連しており、コロナ対策の情報共有が容易である。
③2021 年度の海水浴場開設に向けた課題（コロナ対策など）があれば教えてください。	●ライフセーバーの確保。 ・令和２年度新入生が資格を取得していないこと、また、２年生以上の学生も充分な訓練をしていない。 ●宿泊施設の借上げ。 ・宿泊施設での密集回避のため、新たな宿泊施設が必要になる。 ●コロナ対策で経費増加 ・アルコールやマスク、また救助用資機材の導入が必要。 ●東京オリンピック・パラリンピック開催と海水浴場開設期間の重複。 ・本須賀海水浴場は駐車場に警備員を配置しているが、警備員人数確保が不安要素。 ●R２年海水浴場開設事務に関して、県と市町村で温度差があった。 ・ R３年についても山武郡市４市町で連携し、早い段階で県に働きかけていく。

14 海の豊かさを守ろう

海を守り、未来をつくる

オンライン開催

BLUE FLAG Japan サミット 2020

国内4都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会する日本初のシンポジウム

2021年2月7日（日）8：30～11：30

参加費　無料

1 基調講演

「世界のブルーフラッグの現状と展望」
伊藤正侑子氏〔NPO法人 FEE Japan 理事長〕

2 近況報告

「海水浴場におけるブルーフラッグの現状と課題」
鎌倉市、高浜町、神戸市、山武市

3 活動紹介

「ブルーフラッグ取得に向けた取組」
片瀬西浜・鵠沼海水浴場、逗子海岸海水浴場

4 意見交換 / 総括・講評

兵庫県神戸市
「須磨海水浴場」

福井県高浜町
「若狭和田海水浴場」

神奈川県鎌倉市
「由比ガ浜海水浴場」

千葉県山武市
「本須賀海水浴場」

ブルーフラッグとは、国際NGO FEE（環境教育基金）による世界で最も歴史ある国際環境認証の一つ。①水質、②環境教育・情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準をクリアしたビーチ等に与えられる。1985年にフランスで誕生、現在世界50ヶ国、約4,500ヶ所が取得。日本国内の認証海岸は4ケ所のみ。ブルーフラッグを取得する意義は、ビーチ、マリーナ等の周辺地域の持続可能な発展を促進することにある。

［主催］　NPO法人湘南ビジョン研究所、NPO法人FEE Japan、高浜町
［後援］　文教大学湘南総合研究所

海を守り、未来をつくる

BLUE FLAG Japan サミット 2020　オンライン開催

ブルーフラッグは、1985年にフランスで誕生し、現在世界50ヶ国、約4,500ヶ所ビーチやマリーナ、観光事業者が取得しています。日本国内においては、2016年4月に鎌倉市「由比ガ浜海水浴場」、高浜町「若狭和田海水浴場」、2019年4 月に神戸市「須磨海水浴場」、山武市「本須賀海水浴場」が認証され、国内4か所のブルーフラッグ認証海水浴場が誕生しました。しかし、各自治体が抱える海岸の課題は多様で、各地域では試行錯誤しながら毎年更新しています。

そこで、この度、国内4都市のブルーフラッグ認証海岸の関係者が一堂に会して認証取得の意義を再確認し、ブルーフラッグビーチの現状と課題を共有するとともに、国内におけるブルーフラッグ認証地域の普及による海辺からのSDGsの実現に貢献することを目的に「BLUE FLAG Japanサミット2020」を開催します。

プログラム

第1部 8:30〜

● 開会 / 主催者代表挨拶　中野博之氏［高浜町産業振興課］

● 基調講演　**「世界のブルーフラッグの現状と展望」**

伊藤正侑子氏［NPO法人 FEE Japan 理事長］

スカンジナビア政府観光局アジア太平洋地区総括本部代表、NPO法人グリーンサンタ基金 代表理事を経てFEE Japan理事長に就任。国際NGO・FEE本部より承認を受け日本において、BLUE FLAG、Eco-Schools、LEAF、Green Key等の環境教育プログラムを運営・実施。

第2部 9:00〜

● 近況報告　**「海水浴場におけるブルーフラッグの現状と課題」**

事例① 由比ガ浜海水浴場
鎌倉市市民生活部観光課
角田裕亮氏

事例② 若狭和田海水浴場
一般社団法人若狭高浜観光協会
高田慎平氏

事例③ 須磨海水浴場
神戸市港湾局海岸防災課
課長　塩見勝宏氏

事例④ 本須賀海水浴場
山武市経済環境部わがまち活性課
鈴木昌子氏

第3部 10:10〜

● 活動紹介　**「ブルーフラッグ取得に向けた取組」**

事例① 片瀬西浜鵠沼海水浴場
江の島海水浴場協同組合
理事長　森井裕幸氏

事例② 逗子海岸海水浴場
逗子海岸営業協同組合
理事長　菊池千春氏

第4部 10:30〜

● 意見交換　**「コロナ禍におけるブルーフラッグの意義と展望」**

コーディネーター　片山清宏氏　［NPO法人 湘南ビジョン研究所 理事長］

藤沢生まれ。1999年厚木市役所、イギリス・スウェーデン海外研修派遣、神奈川県庁を経て、松下政経塾(31期)入塾。2011年NPO法人湘南ビジョン研究を設立、理事長に就任。海の環境問題に取り組む。2019年「かながわ地球環境賞」受賞。慶應義塾大学SFC研究所上席所員。全日本学生サーフィン選手権4位。

● 総括・講評 / 閉会

第3部〜第4部　参加者とのクロスセッションあり

海津ゆりえ氏　［文教大学国際学部教授］

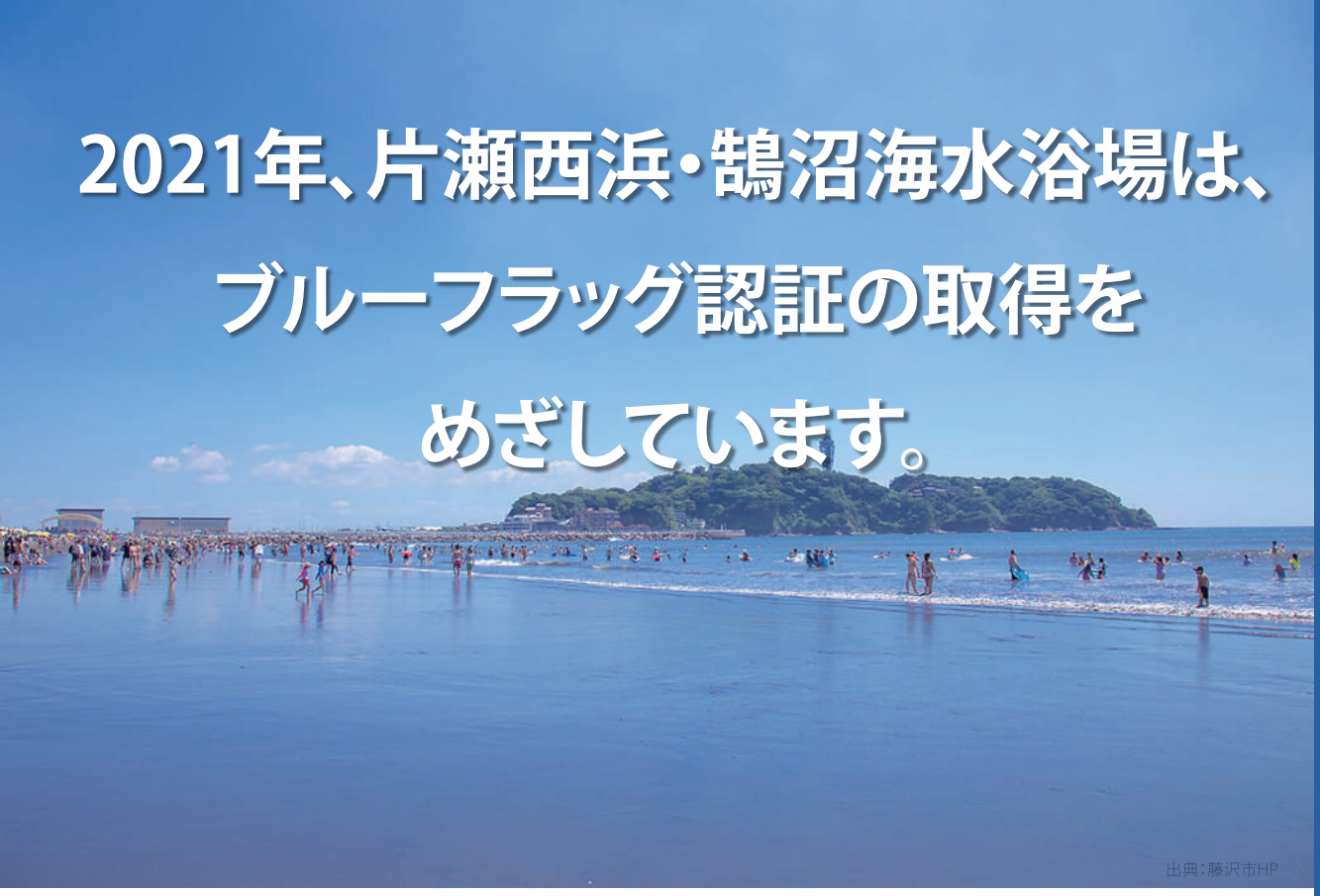
鎌倉在住。農学博士。有限会社資源デザイン研究所代表取締役社長、文教大学国際学部准教授等を経て現職。NPO法人日本エコツーリズム協会理事、環境省エコツーリズム推進会議委員、鎌倉市観光協会理事等を歴任。専門：エコツーリズム論、サステナブルツーリズム論、資源デザイン論、観光資源論。湘南ビジョン研究所理事。

お申し込み お問い合わせ

申込方法：湘南ビジョン研究所のメールに参加者のお名前とご連絡先をお送りください。ZoomのURLをお送りします。

NPO法人 湘南ビジョン研究所
HP https://shonan-vision.org/
FB https://www.facebook.com/shonanvision/
mail info@shonan-vision.org
tel 090-9017-2459

2021年、片瀬西浜・鵠沼海水浴場は、ブルーフラッグ認証の取得をめざしています。



出典：藤沢市HP

江の島海水浴場協同組合理事長の森井裕幸です。片瀬西浜・鵠沼海水浴場は、首都圏から近く富士山や江の島が見える景観の良さもあって、年間100万人以上来場者が来る日本屈指の海水浴場です。このたび、海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」の取得をめざすことにしました。認証を受けるためには、行政、企業、環境/観光団体、漁業関係者、マリンスポーツ関係者、ライフセーバー、市民など、多くの人の協力が必要です。地域が一体になってみんなで、海岸ゴミ対策、騒音対策、喫煙ルールの徹底、安全対策、バリアフリーの導入などに取り組んで、世界が認める「キレイで安心安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」をめざし、この素晴らしい湘南の海を次世代に残していきましょう！

ブルーフラッグとは

ブルーフラッグとは、デンマークに本部がある国際NGO FEE（国際環境教育基金）による世界で最も歴史ある国際認証制度です。①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準があり、毎年審査を受けて更新する必要があります。基準を満たしたビーチ・マリーナ等はフラッグを掲げることができます。ブルーフラッグは1998年にフランスで誕生し、現在世界47ヶ国、4,671ヶ所が取得しています。特にヨーロッパでの認知度は高く、ブルーフラッグを取得したビーチは「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れます。日本国内における認証ビーチは、鎌倉市「由比ガ浜海水浴場」、高浜町「若狭和田海水浴場」、神戸市「須磨海水浴場」、山武市「本須賀海水浴場」の4か所のみです。

SHONAN VISION
Social Magazine
Vol.43
2021.03

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

この活動は一般財団法人セブンイレブン記念財団の助成を受けています。

PUBLISHER：片山清宏
EDITOR IN CHIEF：壱岐信二
ART DIRECTOR：大戸千尋
COVER PHOTO：高浜町提供

http://shonan-vision.org/
@shonanvision
info@shonan-vision.org

SHONAN VISION vol.43 | 2021年03月号 2021年03月25日発行 発行：NPO法人湘南ビジョン研究所 〒251-0027神奈川県藤沢市鵠沼桜が岡3-9-29 shonan-vision.org